

## 2 受療率

全国の受療率（人口10万対）は、入院1,139、外来5,083である。これは調査日に人口の約1.1%が入院し、約5.1%が外来を受診していることを示している。

### (1) 性・年齢階級別

受療率を性別にみると、入院では男が1,078、女が1,197となっており、外来では男が4,393、女が5,743となっている。

年齢階級別にみると、入院では10～14歳が最も低く、年齢階級が高くなるに従って高くなり、90歳以上で最も高く、外来では15～19歳が最も低く、75～79歳が最も高くなっている。

性・年齢階級別にみると、入院では、0歳、20～34歳及び80歳以上の年齢階級で女が男より高く、外来では、10～14歳までの年齢階級及び85歳以上の年齢階級で男が女より高い。

(表8)

表8 年齢階級別にみた受療率（人口10万対）

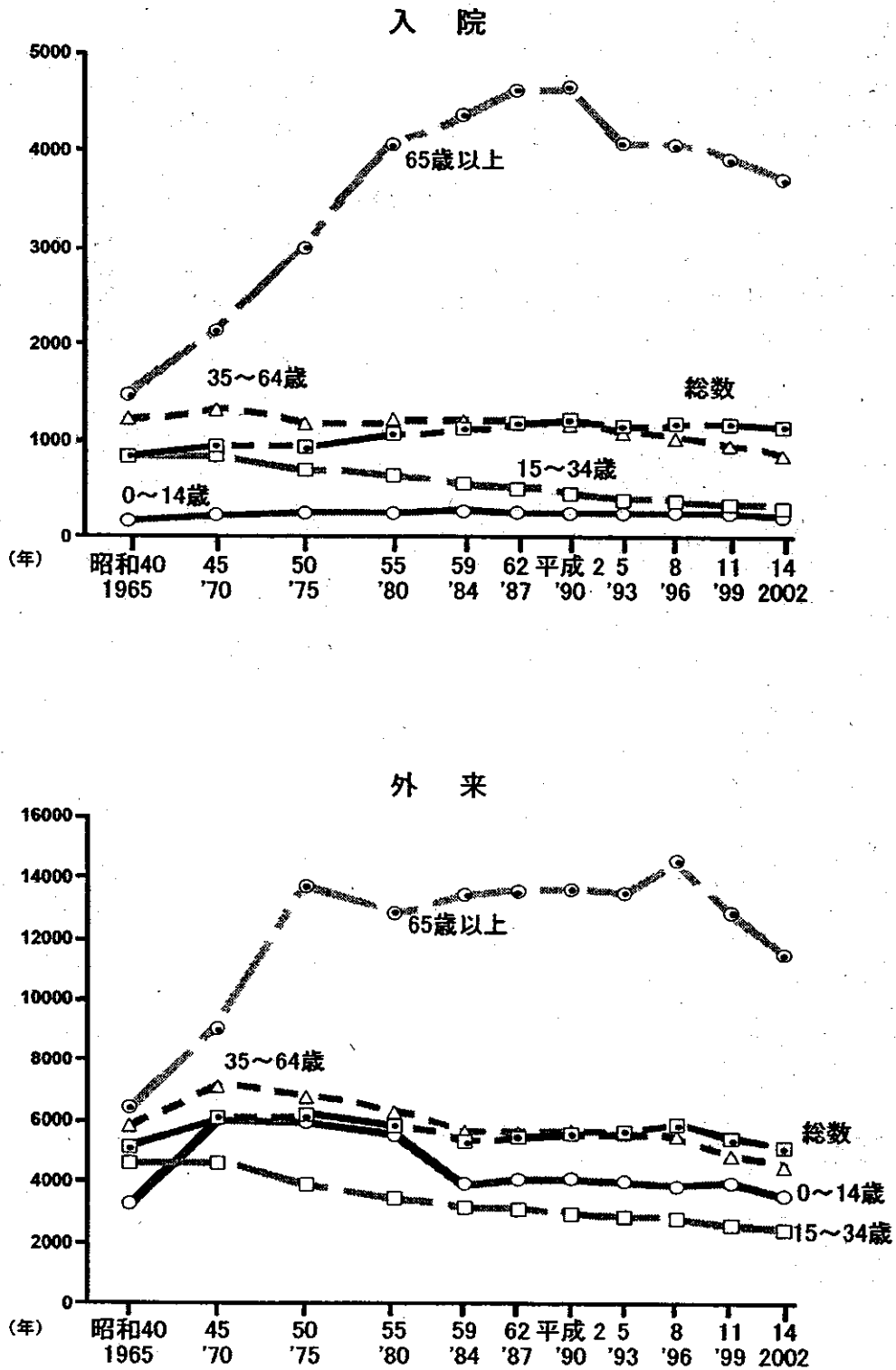
	入 院			外 来		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	1 139 ( 1 170 )	1 078 ( 1 121 )	1 197 ( 1 217 )	5 083 ( 5 396 )	4 393 ( 4 740 )	5 743 ( 6 024 )
0 歳	1 078	1 070	1 086	5 496	5 587	5 401
1 ～ 4	208	238	176	5 360	5 594	5 116
5 ～ 9	124	139	108	3 324	3 474	3 167
10 ～ 14	116	129	102	1 917	2 042	1 785
15 ～ 19	159	173	144	1 699	1 534	1 874
20 ～ 24	246	220	273	2 171	1 642	2 726
25 ～ 29	349	278	421	2 590	1 825	3 379
30 ～ 34	402	333	473	2 927	2 141	3 728
35 ～ 39	416	434	399	2 987	2 388	3 595
40 ～ 44	480	555	404	3 112	2 620	3 610
45 ～ 49	647	760	534	3 500	3 028	3 975
50 ～ 54	890	1 062	718	4 366	3 820	4 909
55 ～ 59	1 118	1 363	881	5 563	4 902	6 204
60 ～ 64	1 444	1 755	1 152	7 130	6 511	7 715
65 ～ 69	1 910	2 262	1 593	9 485	8 707	10 186
70 ～ 74	2 640	3 002	2 338	12 140	11 326	12 824
75 ～ 79	3 666	3 846	3 540	13 267	12 751	13 629
80 ～ 84	5 550	5 383	5 640	13 013	12 990	13 031
85 ～ 89	8 278	7 432	8 664	11 491	12 190	11 187
90 歳以上	12 115	10 037	12 794	9 007	9 773	8 756
(再 掲)						
65 歳以上	3 706	3 518	3 843	11 481	10 858	11 935
70 歳以上	4 521	4 196	4 735	12 387	12 020	12 629
75 歳以上	5 684	5 125	6 000	12 539	12 560	12 526

注：1 総数には、年齢不詳を含む。

2 ( ) 内の数値は、平成11年の値である。

年次推移をみると、入院、外来とも平成 11 年と比べ、全ての年齢階級で受療率は減少している。(図 3、統計表 7)

図 3 年齢階級別にみた受療率（人口 10 万対）の年次推移



(2) 傷病分類別

受療率を傷病分類別にみると、入院では「V 精神及び行動の障害」が258で最も高く、次いで「IX 循環器系の疾患」246、「II 新生物」131の順となっている。外来では「XI 消化器系の疾患」が951で最も高く、次いで「IX 循環器系の疾患」704、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」693の順となっている。

性別にみると、入院では男は「V 精神及び行動の障害」が268で最も高く、次いで「IX 循環器系の疾患」208、「II 新生物」147の順となっており、女は「IX 循環器系の疾患」が281で最も高く、次いで「V 精神及び行動の障害」249、「II 新生物」115の順となっている。

また、外来では男は「XI 消化器系の疾患」が875、「IX 循環器系の疾患」601、「X 呼吸器系の疾患」561の順となっており、女は「XI 消化器系の疾患」が1,023、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」875、「IX 循環器系の疾患」802の順となっている。(表9)

表9 傷病分類別にみた受療率(人口10万対)

傷病分類	入 院			外 来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1 139	1 078	1 197	5 083	4 393	5 743
I 感染症及び寄生虫症	25	29	21	172	162	182
結核 (再掲)	7	9	4	3	4	3
ウイルス肝炎 (再掲)	5	6	4	63	67	59
II 新生物	131	147	115	141	131	151
胃の悪性新生物 (再掲)	16	21	11	16	21	11
大腸の悪性新生物 (再掲)	15	16	13	16	18	15
肝及び肝内胆管の悪性新生物 (再掲)	9	12	5	5	7	4
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	15	22	8	8	11	5
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	5	21	10	32
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	33	30	36	282	232	330
糖尿病 (再掲)	27	25	28	146	155	137
V 精神及び行動の障害	258	268	249	157	133	180
血管性及び詳細不明の痴呆 (再掲)	42	26	57	9	4	13
精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害 (再掲)	159	177	142	44	47	42
VI 神経系の疾患	66	59	73	94	82	105
VII 眼及び付属器の疾患	12	9	14	240	167	311
VIII 耳及び乳様突起の疾患	3	2	3	80	72	88
IX 循環器系の疾患	246	208	281	704	601	802
高血圧性疾患 (再掲)	11	6	15	466	360	567
心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	47	42	51	110	108	113
脳血管疾患 (再掲)	178	148	206	97	98	96
X 呼吸器系の疾患	57	64	49	563	561	566
喘息 (再掲)	9	9	9	111	118	104
XI 消化器系の疾患	59	67	52	951	875	1 023
歯及び歯の支持組織の疾患 (再掲)	1	1	1	696	631	759
食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	11	12	10	138	127	148
肝疾患 (再掲)	12	14	10	43	51	35
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	7	7	7	173	156	190
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	55	37	73	693	503	875
XIV 尿路性器系の疾患	37	38	36	175	151	198
XV 妊娠、分娩及び産後	19	.	37	14	.	28
XVI 周産期に発生した病態	5	5	5	2	2	2
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	5	5	5	8	8	8
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	17	15	19	52	42	61
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	93	81	104	221	235	208
XX I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	3	13	341	273	406
歯の補綴 (再掲)	0	0	0	194	177	210

平成14年10月

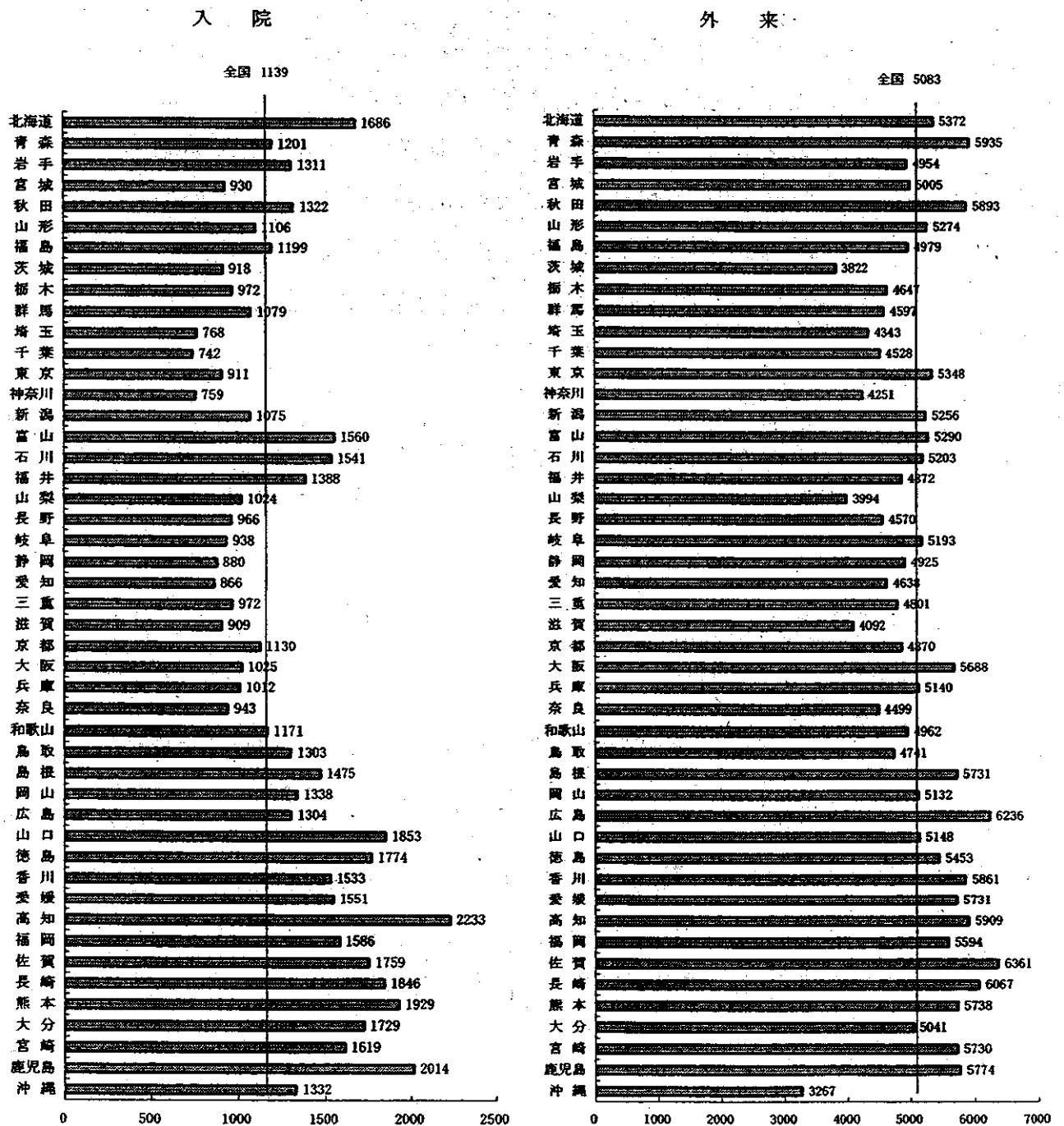
(3) 都道府県別

受療率を都道府県（患者住所地）別にみると、入院では、高知が2,233と最も高く、次いで鹿児島2,014、熊本1,929、山口1,853となっている。また、最も低いのは千葉の742で、次いで神奈川759、埼玉768となっている。

外来では、佐賀が6,361と最も高く、次いで広島6,236、長崎6,067となっている。また、最も低いのは沖縄の3,267で、次いで茨城3,822、山梨3,994となっている。

(図4、統計表11)

図4 都道府県別（患者住所地）にみた受療率（人口10万対）



注：都道府県受療率は、患者住所地別に集計したものである。

### 3 入院患者の状況

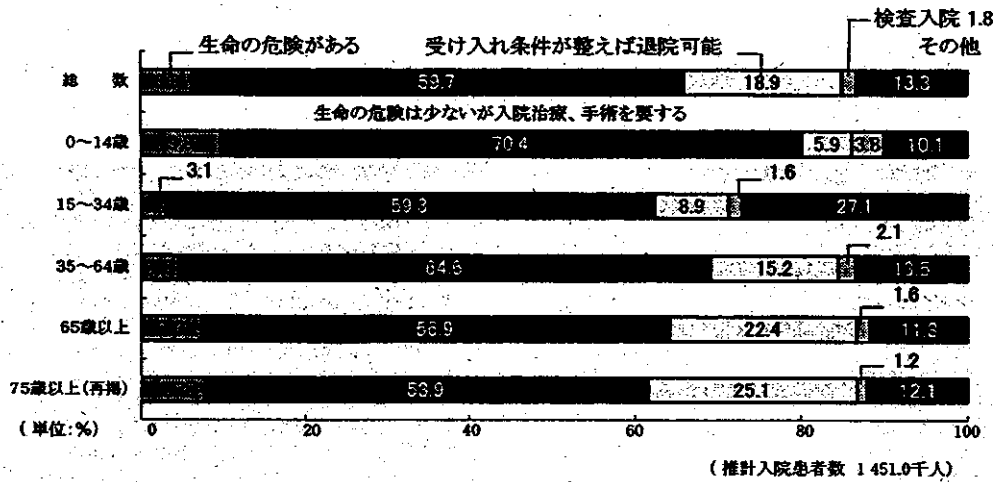
#### (1) 重症度の状況

入院患者を重症度別の構成割合でみると、「生命の危険がある」6.3% (9万2千人)、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」59.7% (86万6千人)、「受け入れ条件が整えば退院可能」18.9% (27万4千人)、「検査入院」1.8% (2万6千人)となっている。

「受け入れ条件が整えば退院可能」は年齢階級が高くなるに従って増加している。

(図5)

図5 年齢階級別にみた重症度の状況別推計入院患者数構成割合

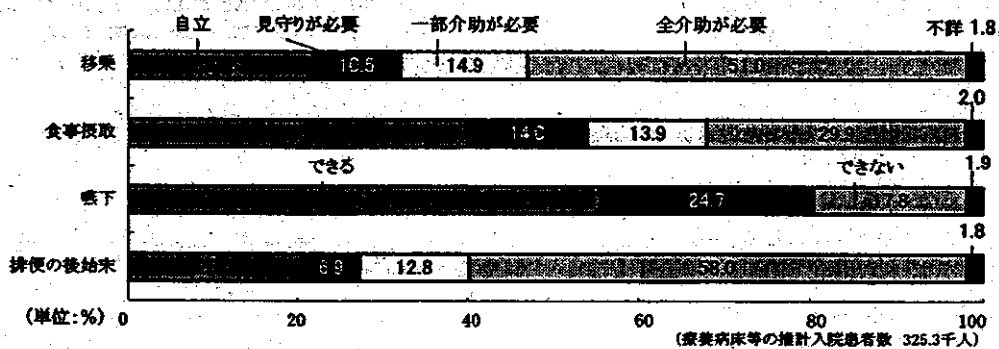


- 注: 1 「生命の危険がある」とは、生命の危険がある重篤な患者をいう。  
 2 「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」には、退院が決定している患者を含む。  
 3 「受け入れ条件が整えば退院可能」とは、退院は決まっていないが退院可能な状態にある患者をいう。  
 4 「検査入院」とは、検査のために入院した患者をいい、健康な者に対する一般的検査のための入院患者も含む。  
 5 「その他」とは、上記以外の場合の入院患者をいう。

#### (2) 心身の状況

療養病床等の入院患者について調査日当日の心身の状況をみると、「移乗」から「排便の後始末」までの各項目において「嚥下」を除いて「自立」の状態にある者の割合は50%に満たない。(図6)

図6 心身の状況別にみた療養病床等の推計入院患者の構成割合



- 注: 1 療養病床等とは、病院については「老人性痴呆疾患療養病棟」、「療養病床 (療養型病床群を含む)」及び「老人病床」の患者が対象となり、一般診療所については「療養病床」の患者が対象となる。  
 2 「嚥下」の「できる」は、「自立」に相当する。  
 3 「嚥下」の「できない」は、「全介助が必要」に相当する。